

茅ヶ崎市一般廃棄物処理基本計画における毎年度の進行管理について

1. 進行管理の基本的な考え方

令和7年3月に策定した「茅ヶ崎市一般廃棄物処理基本計画（以下、「計画」という。）」第5章において、計画で設定した施策を効果的に展開していくために、“PDCAサイクル”に基づき計画の進行管理を行うこととしています。

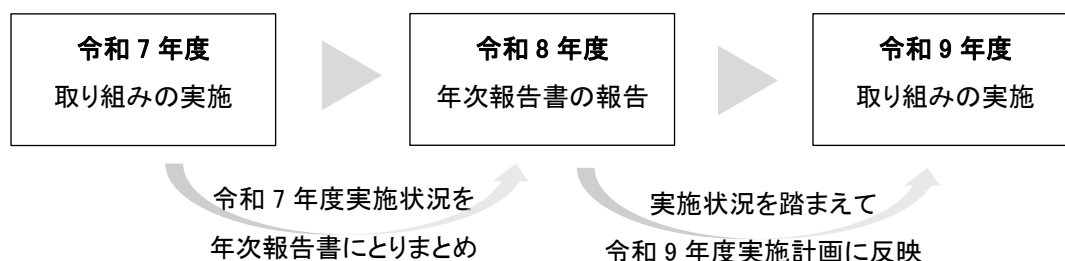
【第5章 図1 PDCA サイクル】



2. 毎年度の進行管理

毎年度の進行管理として、計画に掲げる全ての施策の前年度の実施状況を一般廃棄物処理基本計画年次報告書（以下、「年次報告書」）にとりまとめ、それらについて茅ヶ崎市廃棄物減量等推進審議会（以下、「審議会」）に報告します。審議会からの意見等は、翌年度の一般廃棄物処理実施計画（以下、「実施計画」）に反映させることで、施策の進め方の改善を図るとともに、新たな課題を確認します。

【進行管理イメージ】



3. 年次報告書様式(案)

年次報告書では、計画策定時に設定した基本目標の目標値（進行管理の指標）に対する達成状況を確認することで、計画全体の進捗状況を把握します（【別紙1】参照）。また、各施策の実施状況を進捗確認項目及び参考データを用いて把握するとともに、課題及び今後の方向性を整理します（【別紙2】参照）。





4. 年次報告書様式の見直し

年次報告書様式については、施策の実施状況や新たな課題に適切に対応できるよう、計画改訂時に限らず、必要に応じて進捗確認項目の追加等を行うなど、柔軟に見直すことができるものとします。

1. 基本目標達成状況

当該年度の実績を基に、目標の達成状況
(達成:○、未達成:×)を記載します。

(1)ごみ処理基本計画

項目	方向性	令和5年度	令和X年度			令和11年度	令和16年度
		実績 (計画策定時)	実績	目標	達成状況	目標 (中間目標)	目標 (最終目標)
ごみの年間排出量(t)		63,206	62,596	62,117	×	61,954	61,869
リサイクル率(%)		27.4	28.6	29.3	○	31.6	35.7
最終処分率(%)		7.3	6.5	5.8	×	3.7	0
市民1人1日当たりの家庭系ごみ排出量 (g/人・日)		576	574	568	×	558	550

注1) 達成状況は、当該年度の目標値と実績値を比較します。

進捗確認項目及び参考データにより、各施策の取組内容(実績)及び課題や今後の方向性等を記載します。

2. 各施策の実施状況

(1)ごみ処理基本計画

基本方針Ⅰ ごみ排出量削減による環境負荷の低減化

ごみの排出抑制や再生利用の促進によるごみの減量化は、環境への負荷を軽減し、限りある資源の有効活用にも繋がります。社会的課題であるプラスチックごみや食品ロスの削減、今後も増加が予想される事業系ごみへの対応を重点的な課題と捉え、「排出者責任」だけでなく、「拡大生産者責任」の視点も踏まえたうえで効果的な取り組みを積極的に推進します。

施策

1 家庭系ごみの減量化

1-1 プラスチックごみの削減 **重点**

1-2 食品ロスの削減 **重点**

1-3 生ごみの削減

1-4 グリーンリサイクルの推進

進捗確認項目		実績(年度)					
		R6	R7	R8	R9	R10	R11
製品プラスチックのリサイクルに関する関係者協議	実施回数	18回					
マイボトル利用の推進(給水スポットの設置)	設置台数	16台					
	利用流量	14,859リットル					
市フードドライブへの寄附	寄附件数	94件					
	寄附重量	516.5kg					
生ごみ処理機購入費補助	補助件数	95件					
	予算執行率	99.5%					
剪定枝のリサイクル	資源化量	976t					

必要に応じ進捗確認項目の追加等を行うことで、施策の実施状況及び新たな課題に対応します。

参考データ	実績(年度)					
	R6	R7	R8	R9	R10	R11
家庭系ごみ排出量(t)	51,428t					
資源化量(t)	17,885t					

※家庭系ごみ排出量は、家庭系ごみ(燃やせるごみ・燃やせないごみ・大型ごみ等・資源物)の合計です。

取組内容(実績)

製品プラスチックのリサイクルフロー検討に向け、関係事業者や自治体との協議等を計18回実施しました。給水スポット設置により14,859リットルの利用があり、フードドライブでは約516kgの寄附がありました。生ごみ処理機補助金の執行率は99.5%となり、剪定枝976tを資源化しました。

取組の課題や今後の方向性

製品プラスチックのリサイクルフロー構築にあたっては、引き続き関係機関との連携・協議を進めていきます。また、市民によるごみ削減の取組を一層促進するためには、マイボトル利用促進やフードドライブ、生ごみ処理機普及などの効果を「見える化」し、市民意識の向上につながる効果的な周知・啓発を進めていくことが課題です。今後も、これらの取り組みを通じて地域全体での資源循環を推進し、ごみの減量と再資源化のさらなる拡大を図ります。